



宮本 昌子 Miyamoto, Shoko

人間系

E-mail : smymt@human.tsukuba.ac.jp

Lab web page : <https://miyamoto-lab.net/>

学者の杜 : <https://ura.sec.tsukuba.ac.jp/unit-members?kid=70412327>

Kakenhi : 20272907, 20273117 Orcid : <https://orcid.org/0000-0002-6394-0388>

Affiliation : Faculty of Human Sciences

Collaborators : 飯村大智 (川崎医療福祉大学)

研究テーマ

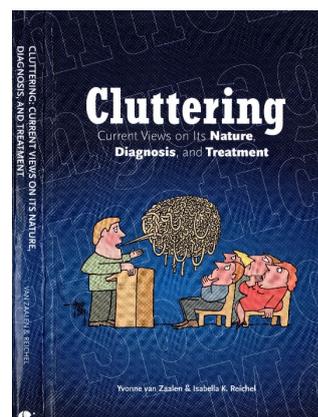
- 早口言語症の発症メカニズム解明
- 早口言語症の診断と治療（評価と指導）法の開発

Keyword 発話非流暢性障害、吃音、早口言語症、クラタリング、cluttering

研究ハイライト

Highlight

早口言語症は、発話速度が速く不規則で、吃音のような繰り返しが起き、発話が不明瞭になる障害です。自覚に乏しく、吃音とも類似しているため、臨床場面で発見されることは少ないのが特徴です。大半が「吃音」と誤診断されるため、間違った治療・指導法が用いられています。もともとは、東欧や北欧で研究されていた分野で、現在では米国でもさかんですが、アジア諸国では未開発です。現在、日本語話者に適用可能な診断評価ツールを作成することを目標として研究を行っています。セルフモニタリング能力の向上を目指して介入すると、症状が良好になることがわかっています。今後は、臨床介入研究にも移行していきませんが、習慣となった話し方をどのようにしたら変えられるのか、という点に興味があり、条件を検討したいと考えています。



研究の応用・展望

Applications and Prospects

- 吃音との鑑別診断法を確立させること
- 発達障害と早口言語症の関係性を明らかにすること
- 小学校「ことばの教室」で早口言語症の評価と指導が浸透するように発信すること

文献・知財・作品

Literature, intellectual property, work

- Co-Occurring Disorders in Children Who Stutter: Analysis of Using the Japanese Checklist for Possible Cluttering, Miyamoto Shoko, *Journal of Special Education of Research*/8(2)/pp.53-62, 2020-03
- クラタリング・スタタリングを呈する児童の発話特徴—構音速度と非流暢性頻度の測定—, 宮本 昌子, *音声言語医学* /60(1)/pp.30-42, 2019-01